

平安時代の暮らし 今から約 1,200 ~ 800 年前

平安時代の特徴

- ・ 貴族の政治とくらし
- ・ 平安京
- ・ 国風の文化
- ・ 武士の誕生と仏教
- ・ 集落の発達 (荘園と牧)

約 1,000 年前の開拓者のムラ



たてあなしきじゆうきよあと
竪穴式住居跡

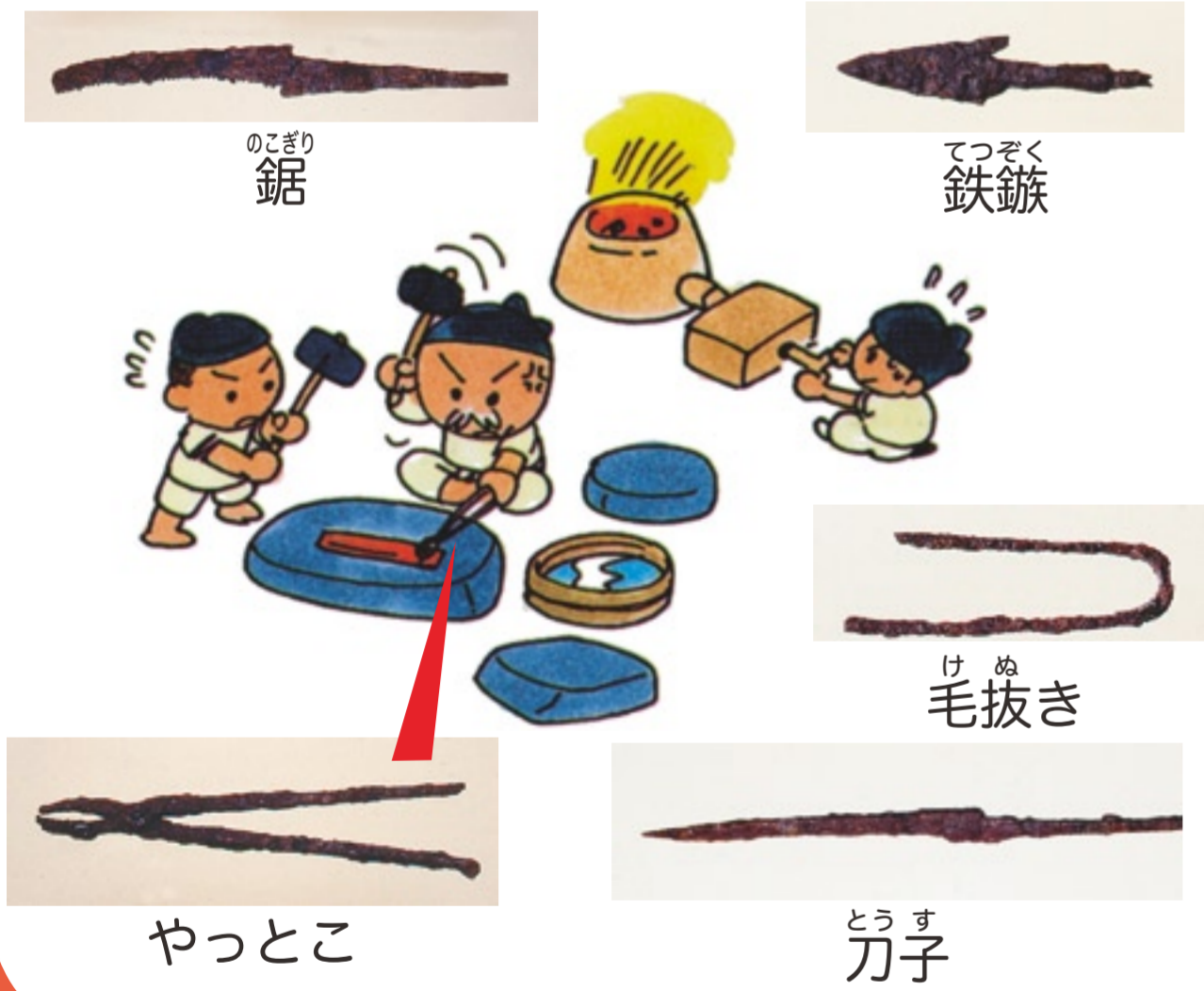
てらどこ
寺所遺跡 (北杜市大泉町)



しゅつど
出土した土器

3 棟の掘立柱建物跡と、大きめの竪穴住居跡を囲むようにムラが作られていました。このムラからは、鉄製品がたくさん発見されています。

ムラの鍛冶屋さん



泥塔を焼いた跡を発見

ごんげんどう
権現堂遺跡 (南巨摩郡増穂町)



写真は増穂町教育委員会提供

泥塔は、平安時代の貴族の間ではやった、病気や祟りを鎮める儀式に使う小さな塔で、宝塔形をまねした素焼きの土製品です。

甲斐の御牧

山梨には、柏前牧・真衣野牧・穂坂牧という公の三つの牧がありました。この牧で飼育されていた馬は、都に送られていました。



真衣野牧と考えられている地域の遺跡から「牧」という字が書かれた器が見つっています。

古代巨麻郡の中心地から金銅仏を発見

まつのお
松ノ尾遺跡 (甲斐市大下条・中下条)



あみだにらいざぞう 1



あみだにらいざぞう 2

平安時代の終わりに頃になると、来世で極楽浄土に行くことを強く願うようになりました。この金銅仏は、それを示す資料ともなっています。

写真は甲斐市教育委員会提供

経典を埋めて祈る

かしおさんきょうづか
柏尾山経塚遺跡 (甲州市勝沼町)

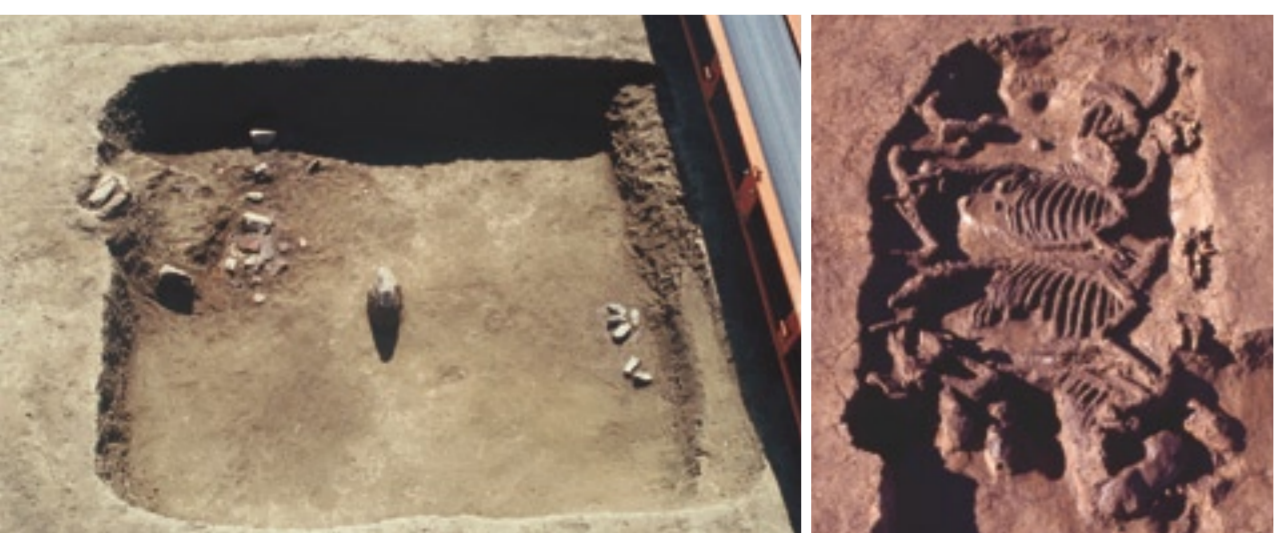


きょうづつ
経筒 (レプリカ)

56 億 7 千万年後に現れて衆生を救ってくれる弥勒菩薩のために、経典を地下に埋納しました。これを経塚といいます。

平安時代の大集落

どうどう
百々遺跡 (南アルプス市百々)



たてあなしきじゆうきよあと
竪穴式住居跡

まいそう
馬の埋葬

およそ 250 軒の住居跡、80 体以上のウシやウマの骨が見つかった 1,200 年ほど前のムラの跡です。帯金具や八稜鏡、銅製のおもりなども見つっています。

9 ~ 11 世紀の低地のムラ

しおべ
塩部遺跡 (甲府工業高校敷地) (甲府市塩部)



ひとがたしゅつど
人形出土状況



人形

人形は、呪いなどに使われたものです。この人形に穢れを移し、川へ流したものと考えられます。